

第 6 7 回 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 議事録

1. 日 時：2011年11月22日（火）10：00～19：00

2. 場 所：日本機械学会 第3、4、5会議室

3. 出席者：（委員23名中、出席者21名；敬称略）

小山（三菱重工）、永田（日立GE）、堂崎（日本原電）、三木（富士電機）、植田（原安委）、小木曾（川崎重工）、
国則（電気協会）、船田（JNES）、栗飯原（東大）、鬼沢（JAEA）、三浦（JSW）、鹿島（電中研）、肥
田（中部プラントサービス）、町田（テプコシステムズ）、野村（関西電力）、山田（中部電力）、杉江（原技協）、
月森（JAEA）

代理：齊藤（東芝：平山委員）、濱中（東電：小島委員）、北条（三菱重工：望月委員）

欠席：兼近（鹿島建設）、天野（保安院）

オブザーバー：

薄井／横山（JNES）、片山（関西電力）、阪田（OCL）、中野／関／柴山／石生（三菱重工）、山本／太田
／竹内（東芝）、伊藤（東電）、藤野（日本原電）、山口／柳川（コベルコ科研）、浅山（JAEA）、加納／高坂／
平（日本原燃）、宮口（IHI）

事務局：高柳

4. 配布資料

67-1：第66回原子力専門委員会議事録案

67-2：投票結果

67-3：新規質問及び未回答質問

67-4：第57回発電用設備規格委員会議事録案

67-5：原子力専門委員会委員／分科会委員案

67-6-1：専門委員会運営規約改訂対応

67-6-2：JNESによる技術評価対応ガイドライン案

67-6-3：書面投票結果の意見対応に関するガイドライン案

67-6-4：引用する規格の年版について

67-6-5：材料規格改訂方針検討タスク活動報告書

67-6-6-1：2011年度MDEP対応委員会作業計画

67-6-6-2：出張報告 2nd MDEP Conference on New Reactor Design Activities

67-6-7：過酷事故対応設計ガイドライン対応

67-6-8-1：各分科会 平成24年度活動計画等

67-6-8-2：発電用原子力設備規格整備に関するロードマップ

67-6-8-3：技術評価状況

67-6-8-4：規格整備計画

67-7-1：高速炉規格2011年追補版案規格委員会書面投票意見対応案

67-7-2：高速炉ISI方針検討タスク設置提案に関する投票結果

67-7-3：高速炉ISI方針検討タスクの設置

67-8-1：質疑応答（QNC200588, QNC200589, QNC200804）

67-8-2：材料規格正誤表

67-9-1-1-1：事例規格バスケット用使用材料に関する別表の規定

67-9-1-1-2：金属キャスクバスケット用アルミニウム合金事例規格

67-9-1-1-3：金属キャスク構造規格バスケット用新規材料事例規格案について

67-9-1-1-4：新規バスケット用材料評価結果集約表

67-9-1-2：バスケット用新規材料採用ガイドライン審査基準に対する適合説明（神戸製鋼所）

67-9-1-3：バスケット用新規材料採用ガイドライン審査基準に対する適合説明（神戸製鋼所）

67-9-1-4：バスケット用新規材料採用ガイドライン審査基準に対する適合説明（三菱重工業）

67-9-2：金属キャスク構造規格別表1-1使用する材料の規格に関する確認依頼回答案

67-9-3-1：金属キャスク構造規格（2007年版）溶接部の機械試験板の考え方に関する確認依頼回答案

67-9-3-2：金属キャスク構造規格（2007年版）放射線透過試験の考え方に関する確認依頼回答案

- 67-9-3-3：金属キャスク構造規格（2007 年版）破壊靱性試験の考え方に関する確認依頼回答案
- 67-9-3-4：金属キャスク構造規格（2007 年版）溶接後熱処理の考え方に関する確認依頼回答案
- 67-9-3-5：金属キャスク構造規格（2007 年版）溶接後熱処理温度範囲の考え方に関する確認依頼回答案
- 67-9-3-6：金属キャスク構造規格（2007 年版）再試験の考え方に関する確認依頼回答案
- 67-9-4-1：使用済燃料貯蔵施設規格事例規格溶接部の機械試験に関する代替規定案規格委員会書面投票意見回答案
- 67-9-4-2：使用済燃料貯蔵施設規格 事例規格溶接部の機械試験に関する代替規定案
- 67-9-4-3：使用済燃料貯蔵施設規格 事例規格溶接部の機械試験に関する代替規定案 補足説明資料
- 67-9-4-4：使用済燃料貯蔵施設規格 事例規格溶接部の機械試験に関する代替規定案 牧委員意見回答
- 67-10-1：テンパービード溶接方法改訂案
- 67-10-2：検査間隔が7年に変わった後のポンプおよび弁の試験の考え方案
- 67-10-3：95℃を超える系統の支持構造物の補修後の供用前検査範囲案
- 67-10-4：第2回目以降の検査間隔における試験順序案
- 67-10-5：建設中の供用前検査実施時期案
- 67-10-6：【事例規格】ニッケル合金溶接金属の大気中の疲労き裂進展速度線図案
- 67-10-7：補修章の体系化に伴う総則及び検査章の規定追加案
- 67-10-8：弁、ポンプの溶接継手に関連する非破壊検査要求の適正化案
- 67-10-9：2011 年追補版公衆審査意見への回答案
- 67-11-1：質問 QNB200706 に対する回答案
- 67-11-2：溶接規格改訂案原子力専門委員会書面投票意見に対する回答案
- 67-11-3：事例規格「母材の P-No 区分案」規格委員会再書面投票意見に対する回答案
- 67-11-4：溶接後熱処理の方法及び解説の見直し案規格委員会書面投票意見回答案
- 67-11-5：設計・建設規格及び材料規格適用年版見直し案
- 67-11-6：溶接規格 2011 年追補版案公衆審査結果
- 67-12-1：設計・建設規格への質問回答案件
- 67-12-2：設計・建設規格第 I 編 2011 年追補版編集上の修正提案
- 67-12-3：設計・建設規格第 I 編正誤表提案
- 67-12-4：設計・建設規格第 I 編 2012 年改訂案原子力専門委員会書面投票対応案
- 67-12-5：設計・建設規格 2012 年改訂版追加改訂案
- 67-12-6：事例規格応力腐食割れ発生の抑制に対する考慮改訂案公衆審査結果
- 67-13-1：コンクリート製原子炉格納容器規格（2011 年版）材料規格、設計・建設規格及び溶接規格読替事例規格案規格委員会書面投票結果及び公衆審査計画案
- 67-14-1：再処理設備 溶接規格案 書面投票実施状況
- 67-14-2：再処理設備 設計規格改訂案 書面投票対応
- 67-14-3：再処理設備 維持規格案 書面投票対応

5. 議事内容

(1) 開会

小山委員長が委員会開会を宣言した。

(2) 出席者紹介

出席者全員の自己紹介を行った。

(3) 議事次第確認

議事次第案の確認を行い、変更の提案はなく、承認された。

(4) 前回議事録確認【資料 67-1】

前回議事録案については既に事務局から関係各位に送付済であるため、内容紹介は省略したが、承認された。

(5) 投票結果報告【資料 67-2】

事務局より、原子力専門委員会投票 No. 243 から 255、規格委員会投票 No. 170 から 182 の投票結果が報告された。

(6) 新規質問及び未回答質問【資料 67-3】

事務局より、設計・建設規格に関する質問 (2 件)、金属キャスク構造規格 (2007 年版) に関する質問 (7 件) の新規受付が報告された。

(7) 第 58 回発電用設備規格委員会議事録報告【資料 67-4】

事務局より、第 58 回発電用設備規格委員会の議事録が報告された。

(8) 原子力専門委員会委員／分科会委員の承認【資料 67-5】

事務局より、以下の通り原子力専門委員会、原子力専門委員会傘下の各分科会委員の再任、退任、新任の委員候補が報告された。

原子力専門委員会：

〔再任〕 小山委員長、三木委員、国則委員

〔退任〕 吉田委員、船田委員

〔新任〕 佐藤氏 (発電技検)、菊池氏 (JNES)

設計・建設分科会：

〔退任〕 佐々木委員

〔新任〕 松原氏 (岡野バルブ)

溶接分科会：

〔再任〕 谷浦委員、神垣委員

使用済燃料貯蔵施設分科会：

〔再任〕 道券委員、松田委員

〔退任〕 土田委員

〔新任〕 穴見氏 (日軽金)

〔三役〕 片山委員→片山副主査

配管破損防護設計分科会：

〔再任〕 永田委員、吉岡委員

〔退任〕 三宅委員

〔新任〕 武内氏 (日立 GE)

維持規格分科会：

〔再任〕 水谷委員、望月委員

〔退任〕 湯口委員

〔新任〕 山本氏 (東芝)

再処理設備分科会：

〔退任〕 菅谷委員

〔新任〕 鈴木氏 (溶接協会)

高温規格分科会：

〔再任〕 浅山主査、芋生委員、佐藤委員

配管減肉分科会：

〔再任〕 坂東委員

事務局及びオブザーバー退室後、審議した結果、原子力専門委員会委員の再任候補、新任候補が了解され、各分科会委員の再任候補、新任候補が承認された。

(9) 原子力専門委員会運営に関する審議／報告事項

[審議事項]

(9-1) 専門委員会運営規約改訂【資料 67-6-1】

堂崎幹事より専門委員会運営規約改訂対応案について説明が行われた。規格委員会運営規約改訂対応は既に終了しており、現在は各専門委員会の運営規約改訂に関する書面投票対応と、規格委員会運営規約改訂を踏まえた専門委員会運営規約の改訂内容を各専門委員会毎に実施している状況。本日は原子力専門委員会分の説明が行われ、議論の結果、委員全員の賛成で対応案が編集上の修正であることが承認された。各専門委員会書面投票において、反対票が取り下げられていない核融合専門委員会分については対応状況を別途連絡することとした。主な議論は以下の通り。

- ・委員の貢献の指標から参加状況を削除した場合、どうやって貢献度を評価するのか？→例えばメール等による意見を評価することが考えられる。
- ・材料専門委員会では、例えば ASME では委員の形態を分類しており、将来的には機械学会もその様な分類を参考とすべきだとの意見があった。今後検討したい。

(9-2) JNESによる技術評価対応ガイドライン案【資料 67-6-2】

小山委員長より JNESによる技術評価対応ガイドライン案について説明が行われた。議論の結果、内容等について意見があれば小山委員長まで連絡し、次回原子力専門委員会において決議を取るようになった。

(9-3) 書面投票結果の意見対応に関するガイドライン案【資料 67-6-3】

小山委員長より書面投票結果の意見対応に関するガイドライン案について説明が行われた。議論の結果、内容等について意見があれば小山委員長まで連絡し、次回、または次々回の原子力専門委員会において決議を取るようになった。主な議論は以下の通り。

- ・反対意見への対応において、場合によっては対応協議会を設けることとしているが、これによって現行と比べて対応が遅くなることはないのか？→対応が遅くなることがあれば見直しを行いたい。対応協議会を設ける理由は議論の発散を防ぐためである。

(9-4) 引用する規格の年版について【資料 67-6-4】

堂崎幹事より引用する規格の年版について説明が行われた。議論の結果、各分科会は本提案内容、本提案を 2012 年版に反映する際の問題点、現在の内規の問題点を検討し、意見があれば堂崎幹事まで連絡することになった。また次回、あるいは次々回の原子力専門委員会において内規の改訂も踏まえて書面投票の提案を行うことになった。主な議論は以下の通り。

- ・本提案を踏まえて各規格をどの様にシンクロさせるのか？→例えば設計、溶接、維持は 2012 年に改訂版を出す計画であるので、2012 年版から開始すると混乱が少ないのではないかと追補版発行時にこの様な対応を行うと混乱が生じる可能性がある。2012 年版が無理ならその次の改訂版は 2016 年版となる。
- ・本提案を行うなら、内規の変更が必要になり、書面投票が必要になる。

[報告事項]

(9-5) 材料規格改訂方針検討タスク活動報告書案【資料 67-6-5】

小山委員長より材料規格改訂方針検討タスク活動報告書案の紹介が行われた。次回の原子力専門委員会において本件の書面投票提案が予定されているため、内容等確認することになった。

(9-6) MDE P 対応状況【資料 67-6-6】

永田副委員長より MDE P 対応状況について説明が行われた。本年度は平成 20 年度以降に各国 SDO で実施した各国民間構造規格と ASME 規格の比較結果をまとめた報告書を ASME が作成する計画となっているが、これに対する JSME 分の原稿を作成し、更に他 SDO 分の比較結果をまとめる予定。更に WNA CORDEL グループ等から各国規格間で調整する項目について提案が行われているが、これらの提案を吟味して我が国として調整が有意義

と考えられる項目の提案を行う予定とのことであった。

(9-7) 過酷事故対応設計ガイドライン対応【資料 67-6-7】

宮口規格委員会副委員長より過酷事故対応設計ガイドライン対応状況について説明が行われた。原子力専門委員会意見伺いの書面投票が終了し、多くの意見が寄せられたが、体制整備、他学協会との調整等、今後対応を行い、ガイドラインの制定に向けて対応を図ることになった。

(9-8) 平成 24 年度活動計画、規格整備に関するロードマップ、技術評価予定【資料 67-6-8】

堂崎幹事より平成 24 年度活動計画、規格整備に関するロードマップ、技術評価予定について説明が行われた。内容等についてコメントがあれば 1 月末までに堂崎幹事まで連絡することになった。今後の予定は第 59 回規格委員会では内容等の紹介を行い、第 68 回原子力専門委員会、第 60 回規格委員会で最終版を承認、3 月の学協会協議会にて最終版を提示することになった。

(10) 原子力発電用設備規格に関する報告／審議

(10-1) 高速炉規格改訂案に関する審議【資料 67-7-1~3】

高温規格分科会の浅山主査より高速炉規格 2011 年追補版案の規格委員会書面投票（可決）意見回答案について説明が行われた。議論の結果、意見回答案が編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。また前回規格委員会において、規格委員会書面投票（可決）を条件に公衆審査実施が承認されていることから、本日の結果及び規格委員会三役の確認を踏まえ、公衆審査を実施することになった。

また原子力専門委員会月森委員より高速炉 ISI 方針検討タスクの状況（設置に関する原子力専門委員会書面投票可決）について説明が行われた。

(10-2) 材料規格改訂案に関する審議【資料 67-8-1, 2】

材料分科会の山田主査より材料規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①質問（QNC200588, QNC200589, QNC200804）回答案【資料 67-8-1】

質問（QNC200588, QNC200589, QNC200804）に関する回答案について説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であることが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

○QNC200588

回答案は JIS G3118(2005) と JIS G3118(2010) を使用しても良いとなっているが、質問は JIS G3118(2000) と同等か否か聞いているため、質問者にどのような回答が希望か、確認する。併せて質問の仕方は「同等と解釈し、使用しても良いか？」ではなく、「同等と解釈しても良いか？」に修正する。

○QNC200589

回答案通り。

○QNC200804

主体部の厚さが明確ではないので、熱処理前の形状ということで、再度原子力専門委員会各委員の確認を受ける。

②材料規格正誤表【資料 67-8-2】

今回の質疑応答の回答を作成する段階で、材料規格 2008 年版備考における JISG4051 の年版読替(1979→2005)、材料規格 2011 年本文 JISG3452 常温最小降伏点の記載の誤記が判明したため、これの誤記訂正が説明された。議論の結果、委員全員の賛成により誤記訂正が承認された。

(10-3) 使用済燃料貯蔵施設規格改訂案に関する審議【資料 67-9-1~4】

使用済燃料貯蔵施設分科会の片山副主査、阪田委員、石生委員、伊藤委員、柳川氏／山口氏（コベルコ科研）より金属キャスク構造規格関係の改訂案等について説明が行われた。内容は以下の通り。

①金属キャスクバスケット用ほう素添加アルミニウム合金等事例規格案【資料 67-9-1】

金属キャスク構造規格（2007 年版）で規定されるバスケットに使用する材料としてほう素添加アルミニウム合金、アルミニウム合金が検討されており、過去制定されたキャスクバスケット材料事例規格と同様の手続で、また材料専門委員会のレビューを踏まえ、検討を進めることが説明された。材料専門委員会のレビューは 11 月末までにコメント集約を予定しており、その後コメント回答を踏まえ、なるべく早い時期に原子力専門委員会書面投票を実施することが承認された。

②金属キャスク構造規格別表 1-1 使用する材料の規格に関する確認依頼回答案【資料 67-9-2】

JISG4108（1994）の ASME 材及び ASTM 材の同等材に関する回答案について説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であることが委員全員の賛成により承認された。

③金属キャスク構造規格溶接部の機械試験板の考え方等に関する確認依頼回答案【資料 67-9-3-1~6】

金属キャスク構造規格の「溶接部の機械試験板」、「放射線透過試験」、「破壊靱性試験」、「溶接後熱処理の方法」、「溶接後熱処理における温度範囲および溶接部の厚さに応じた保持時間」および「再試験」の考え方に関する確認依頼回答案について説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であることが委員全員の賛成により承認された。本件の場合、今後は解説内容を規格本文に取り込み、規定の明確化を図ることを検討することになった。

④事例規格溶接部の機械試験に関する代替規定案【資料 67-9-4-1~4】

規格委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、課題を整理して検討を継続すること及び規格委員会に説明を実施することが委員全員の賛成により承認された。

（10-4）維持規格改訂案に関する審議【資料 67-10-1~9】

維持規格分科会の野村主査、齋藤副主査、検査作業会の柴山幹事、関氏（三菱重工）、補修作業会の山本主査、中野幹事より維持規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①テンパービード溶接方法改訂案【資料 67-10-1】

原子力専門委員会二次投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案が編集上の修正であること及び規格委員会に書面投票の実施を提案することが委員全員の賛成により承認された。

②検査間隔が 7 年に変わった後のポンプおよび弁の試験の考え方案【資料 67-10-2】

規格委員会二次投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案が妥当であること及び規格委員会に意見回答案の説明を行うことが委員多数の賛成（賛成 20、保留 1）により承認された。

③95℃を超える系統の支持構造物の補修後の供用前検査範囲案【資料 67-10-3】

規格委員会二次投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案が編集上の修正であること及び規格委員会に意見回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

④第 2 回目以降の検査間隔における試験順序案【資料 67-10-4】

規格委員会書面投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案が編集上の修正であること及び規格委員会に意見回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

⑤建設中の供用前検査実施時期案【資料 67-10-5】

規格委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案が編集上の修正であること及び規格委員会に二次投票の実施を提案することが委員全員の賛成により承認された。

⑥【事例規格】ニッケル合金溶接金属の大気中の疲労き裂進展速度線図案【資料 67-10-6】

規格委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案が妥当であること及び規格委員会に二次投票の実施を提案することが委員全員の賛成により承認された。

⑦補修章の体系化に伴う総則及び検査章の規定追加案【資料 67-10-7】

原子力専門委員会の書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

⑧弁、ポンプの溶接継手に関連する非破壊検査要求の適正化案【資料 67-10-8】

原子力専門委員会の書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・提案理由に運転経験の評価を記載しているが、ASME が試験要求を削除したことを主に記載すべきではないか？ ASME はなぜ削除したのか？→当該部の直接目視が可能であり、機器の健全性が確認できるため削除した。ASME が削除した理由もトラブルがないことなど本提案と同様の理由である。

⑨2011 年追補版公衆審査意見への回答案【資料 67-10-9】

第 58 回規格委員会でのコメントを受け、修文が規格委員会三役預かりとなっていたが、その後、規格委員会三役及び小山委員長の間で調整された回答案の報告が行われた。議論の結果、回答案が妥当であること及び規格委員会に回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により確認された。

(10-5) 溶接規格改訂案に関する審議【資料 67-11-1~6】

溶接分科会の杉江幹事より溶接規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①質問 QNB200706 に対する回答案【資料 67-11-1】

質問 QNB200706 回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であることが委員全員の賛成により承認された。

②溶接規格改訂案原子力専門委員会書面投票意見回答案【資料 67-11-2】

溶接規格改訂案原子力専門委員会書面投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案が編集上の修正であること及び規格委員会に書面投票の実施を提案することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・破壊靱性試験の判定基準を見直すことにより、判定基準は緩和されるのか？それとも厳しくなるのか？→改訂の主旨は溶接規格と設計・建設規格で破壊靱性試験の規定が相違しているため、その整合を図るため、設計・建設規格に合わせるものである。両方で試験温度と判定基準が相違しているため、一律的に緩和されているかの比較をするのは難しい。

③事例規格「母材の P-No 区分案」規格委員会再書面投票意見回答案【資料 67-11-3】

規格委員会再書面投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案が妥当であること及び規格委員会に意見回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

④溶接後熱処理の方法及び解説の見直し案規格委員会書面投票意見回答案【資料 67-11-4】

規格委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案が編集上の修正であること及び規格委員会に意見回答案の説明を行い、反対意見が取り下げられない場合は二次投票の実施を提案することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・解説に JISZ3700 で規定される局部熱処理の規定を追加した理由は？→今回の改訂案では局部熱処理の加熱範囲は ASME ベースであり従来に比べて狭くなり、残留応力の低減効果が炉内熱処理に比べて少なくなる。そのため残留応力の低減効果を炉内熱処理と同等にしたいユーザーは JISZ3700 で規定される局部熱処理の加熱範囲 2 t 以上にするのを推奨事項として追記することにした。

⑤設計・建設規格及び材料規格適用年版見直し案【資料 67-11-5】

原子力専門委員会の書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

⑥溶接規格 2011 年追補版案公衆審査結果【資料 67-11-6】

事務局より溶接規格 2011 年追補版案の公衆審査が実施され、特に意見がなかったことが報告された。

(10-6) 設計・建設規格改訂案に関する審議【資料 67-12-1~6】

設計・建設分科会の永田主査より、設計・建設規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①設計・建設規格への質問回答案件【資料 67-12-1】

質問(QNC200802, QNC200803)に対する回答案について説明が行われた。議論の結果、回答案が委員全員の賛成により承認された。

②設計・建設規格 2011 年追補版編集上の修正提案【資料 67-12-2】

設計・建設規格 2011 年追補版において、溶接規格 2010 年追補版改訂反映漏れ等が確認されたため、そのための対応案について説明が行われた。議論の結果、対応案が編集上の修正であること及び規格委員会に对应案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

③設計・建設規格第 I 編正誤表提案【資料 67-12-3】

設計・建設規格第 I 編 2011 年追補版の発行準備において誤記が判明したため、そのための正誤表案について説明が行われた。議論の結果、正誤表案が編集上の修正であること及び規格委員会に正誤表案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

④設計・建設規格第 I 編 2012 年改訂案原子力専門委員会書面投票対応案【資料 67-12-4】

設計・建設規格第 I 編 2012 年改訂案原子力専門委員会書面投票（一部反対票有り）対応案について説明が行われた。議論の結果、一部反対票は取り下げられたが、本日欠席の反対意見委員がいるため、その委員の意向を次回規格委員会までに確認することになった。反対意見の取り下げがない場合は原子力専門委員会二次投票を実施すること、また対応案が編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。

⑤設計・建設規格第 I 編 2012 年改訂版追加提案【資料 67-12-5】

原子力専門委員会書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

⑥事例規格応力腐食割れ発生の抑制に対する考慮改訂案公衆審査結果【資料 67-12-6】

事務局より事例規格応力腐食割れ発生の抑制に対する考慮改訂案の公衆審査が実施され、特に意見がなかったことが報告された。

(10-7) コンクリート製原子炉格納容器規格改訂案に関する審議【資料 67-13-1】

コンクリート製原子炉格納容器規格（2011 年版）の材料規格、設計・建設規格及び溶接規格の読替事例規格案の規格委員会書面投票結果（可決：意見なし）及び公衆審査計画案に関する説明が行われた。議論の結果、規格委員会に公衆審査の実施を提案することが委員全員の賛成により承認された。

(10-8) 再処理設備規格改訂案に関する審議【資料 67-14-1~3】

再処理設備分科会の太田副主査、加納幹事、設計規格作業会の高坂委員、平委員、維持規格作業会の竹内主査より再処理設備規格改訂案について説明が行われた。内容は以下の通り。

①溶接規格案 書面投票状況【資料 67-14-1】

規格委員会書面投票状況について説明が行われた。

②設計規格改訂案 書面投票対応【資料 67-14-2】

原子力専門委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、一部反対票は取り下げられたが、本日欠席の反対意見委員がいるため、その委員の意向を次回規格委員会までに確認することになった。反対意見の取り下げがない場合は原子力専門委員会二次投票を実施すること、また対応案が編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。

なお、設計規格は2010年に刊行された後、今回初めての改訂版となるが、項番号等が全面改訂となるため追補版としての発行は困難で、改訂版として発行することになった。

③維持規格改訂案 書面投票対応【資料 67-14-3】

原子力専門委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、一部反対票は取り下げられたが、本日欠席の反対意見委員等がいるため、その委員の意向を次回規格委員会までに確認することになった。反対意見の取り下げがない場合は原子力専門委員会二次投票を実施すること、また対応案が編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・異材継手に関する安全審査時の要求事項を規格化すべきとの意見があるが、この様な対応は個別に行うべきもので、規格で対応を行うべきものではない。→再処理設備は実績が余りなく、実績が出るまでは規格に明記する必要があるのではないかと→この様な状況も踏まえ、異材継手の検査は、解説に記載している。
- ・配管減肉に関する部分貫通、漏えいに関して、その状態での配管安定性評価手法が与えられていないが、仮に配管が破断しても、安全評価上問題ないのか？→問題ない。

（11）各分科会活動報告【資料 67-15】

各分科会より活動報告が説明された。

6. その他

次回原子力専門委員会は2012年2月22日（水）開催となった。

以上